



今号が先生方のお手元に届く頃、実は私は、産休・育休に入っています。東京都が育休の新名称を「育業」と発表し、話題にもなりました。VIEW next 編集部は、全国の学校を取材するため、出張の多い職場です。身重な私は、長距離の移動が難しく、今号では、オンラインで取材するコーナーや、目次などの製作を担当しました(たくさん出張に行ってくれた仲間に本当に感謝です!)

ウェブサイト『VIEW next ONLINE』の運営も担当したのですが、先生方はもうご覧いただいていますでしょうか。スマートフォンやパソコンで本誌の記事を読めるほか、誌面の内容を深掘りしたウェブオリジナル記事や、ウェブ限定のコンテンツもあります。私はしばらく子育てにてんてこ舞いになりそうですが、自宅で『VIEW next ONLINE』を見て、教育情報のキャッチアップだけは続けたいと思っています。(佐塚)

本誌・ウェブサイトの 読者モニターを募集します

詳しくは、以下にアクセスしてください。
ご応募をお待ちしております。

『VIEW next』高校版
モニター募集
<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article10441/>



『VIEW next ONLINE』
モニター募集
<https://view-next.benesse.jp/view/web-all/article01254/>



VIEWnext

高校版 2022年10月号

10月14日発刊

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発刊です

先生方から
ご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2022年6月号へのご意見

教師も生徒も、「失敗できる」環境が重要

6月号の特集「生き生きと働き続ける」の課題整理を読み、確かに教師間のつながりが以前よりも弱くなってきていると感じた。コロナ禍の影響で、歓迎会や飲み会などが気軽に行えないことが背景の1つにあると思うが、そうしたことに頼らなくてもよいコミュニケーションのあり方について探っていきたいと思った。その意味で、東京都・私立東一の江幼稚園の「失敗しても大丈夫」と管理職が言い続けるという取り組みに共感した。教師も生徒も、「失敗できる環境」が重要だと改めて認識した。ただ、「失敗しても大丈夫」という考え方が、小学校、中学校、高校と、学校段階が上がっていくに連れて、「失敗はよくない」という考え方になる背景には何があるのかを考えていかなければならないとも感じた。

静岡県立吉原工業高校 松山 陸

日常で「事実承認」を実践していきたい

6月号の特集「生き生きと働き続ける」では、京都教育大学の片山紀子教授の記事に大いに共感するとともに、役立った。特に私が実践しようと思ったのが、「事実承認」だ。片山教授がアドバイスされていたように、周りの教師がどのような授業を目指し、どのように生徒とかかわろうとしているのかをよく見て、その取り組みに対し、仲間として声をかけることは、とても大事だ。また、私が日常的に心がけていることだが、困難なことが起こっても、1人で悩んだり、重荷を背負ったりしないように、周りに共有して、助けてもらうことも大切だと改めて感じた。

和歌山県立橋本高校 寺田順子

「覚えること」にとどまらない学びを探究

6月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された富山県立富山北部高校の嘉志摩有希先生の授業実践は、同じ富山県の教師ということもあり、とても励まされた。「歴史の学習が覚えることにとどまってしまう」という気づきから、生徒に「自分ならどうする?」と考えさせる工夫をし、歴史を通じて未来を予測する力を育むことに注力されていることが、素晴らしいと思った。私の担当教科の英語でも、残念ながら、「単語や文法を覚えれば、それでよい」と思っている生徒がいるため、嘉志摩先生のように、私自身が探究心を持ち、生徒の深い学びにつなげていきたい。

富山県立中央農業高校 千田なつ紀

2か月かけて就職観を醸成する、新しい視点を得た

就職希望の生徒に対して、「指導の時間があまりない」「企業に提出する書類の記入などに時間がかかる」などの理由から、3年次の7月までに、志望する企業を決定するよう指導していた。6月号の「クローズアップ! 就職指導」で紹介された三重県立桑名北高校では、求人票の公開から2か月かけて生徒の就職観を醸成し、生徒と企業の望ましいマッチングを行っていた。それはこれまでの私にはなかった視点であり、目から鱗が落ちるとともに、同校の取り組みは大変参考になった。

栃木県立日光明峰高校 半田高史